

弘前城跡本丸 石垣発掘調査見学会

平成 30 年 8 月 11 日 (土)

弘前城本丸石垣解体工事は、平成 29 年度に解体を開始してから2年目となり、現在、解体数 1,836 石、進捗率は 73%で(8 月 2 日時点)、天守台下は 15 段目、東面北側は 14 段目まで解体は進んでいます。

解体が進むに連れて、背面の調査も進んで来ており、新しい成果も確認されています。

昨年度の発掘調査報告会で報告した井戸遺構(写真②)は調査が進み、井戸が数回造り変えられている跡や、井戸掘方の北壁を押える板材と横木、東壁の裏込め石を押える 11 段以上の石積み、また中央の井戸からは木枠も確認されました。

排水遺構(写真③)は、下段部分は元禄期、上段部分が 19 世紀代に改修されている可能性があることがわかりました。現在、築石の解体に合わせて、蛇口部分から中段までを解体し床石下面の状況が明らかとなりました。

その他、慶長 16 年(1611)の築城の際には築き掛けであった本丸東側石垣の北端の出隅と推定される部分(算木積みの可能性)に新たな石積みが確認されました(写真①)。この石積みは、慶長期の出隅跡か、元禄期に積み足す際に、裏込め石が崩れないように積まれた押え石かはまだ分かっていません。

また、天守台の下から北に約 40m伸びる間知石列を確認しました(写真④)。同規格の石が斜めに 5 段以上積み重ねられているのが確認されました。近代の修理範囲内に納まることから近代の工事と推定されています。機能については調査中ですが、背面の裏込め石を押えた石と推定しています。



①出隅(南東から)



①出隅(南から)



②井戸遺構(南西から)



②井戸遺構(木材検出状況)



平成 30 年 7 月 23 日ドローン撮影によるオルソ写真



③排水遺構(北から)



③排水遺構(北から)



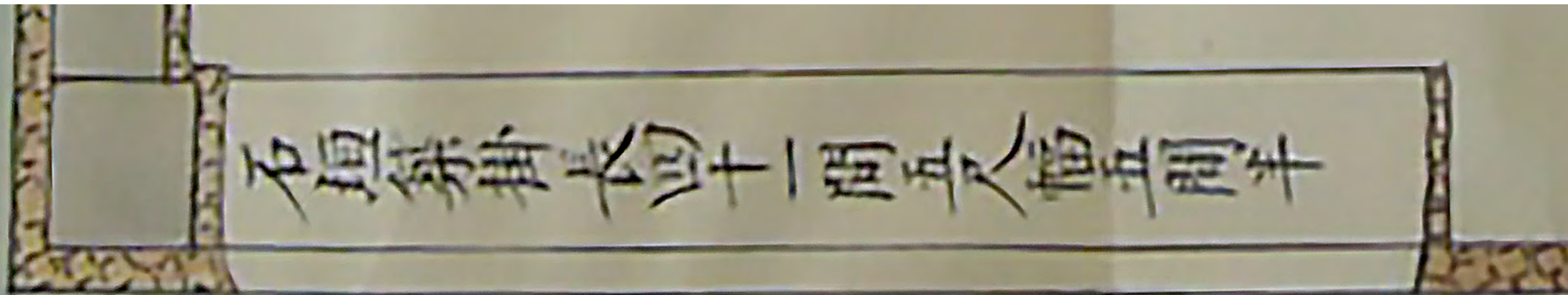
③排水遺構暗渠部(東から)



④間知石(南から)

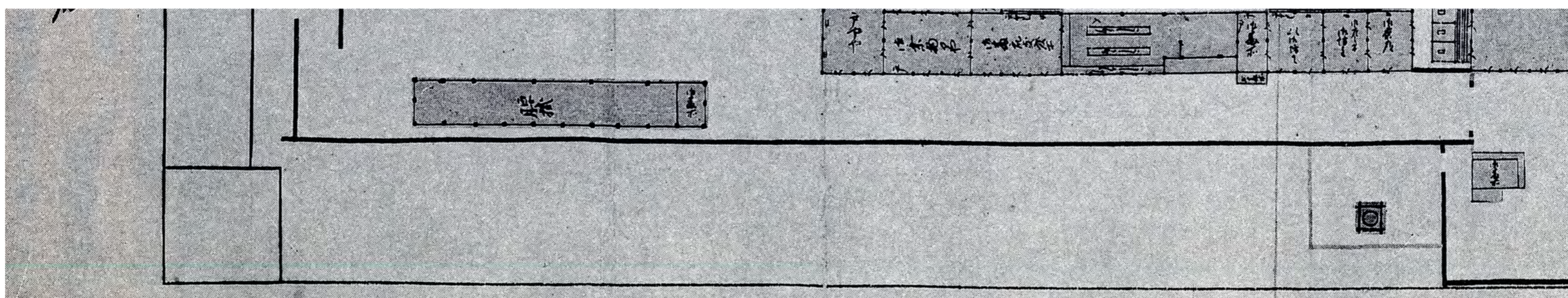


④間知石(西から)



つきかけ
石垣築掛 長41間5尺 幅5間半
41間5尺≒76m
5間半≒10m

弘前御本城ノ図(2 / 3) 奥州津軽郡弘前本城之圖 元禄7年(1679) 一部拡大



御本城御差図 寛文13年(1673) 一部拡大



平成30年7月23日ドローン撮影によるオルソ写真